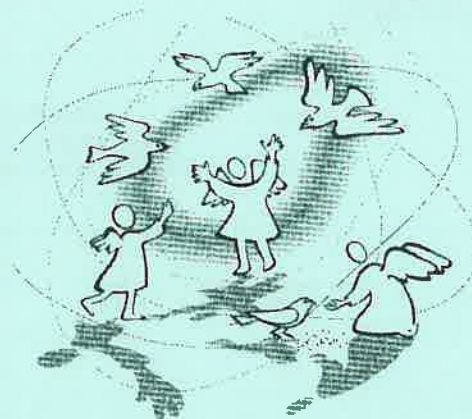


主の祈り (93-5A)

[illegible]

石卷榮光教會宣教基本方針

また、一人一人の生き方を尊重するとともに、神様から一人一人に与えられている賜物を活かして、神さまと人を愛し、感謝しながら地域に仕えていく教会を目指します。



日本キリスト教団 石巻栄光教会

〒986-0854 石巻市大街道北2丁目12-3
電話/FAX: 0225-22-4090
ホームページ: <http://tohoku.uccj.jp/i-eikou>
メール: i-eikou@tohoku.uccj.jp
振替口座: 02280-8-2810
教会創立: 1887年9月25日

集会案内

聖 日 礼 拝	毎週日曜日	午前10:30
早 朝 礼 拝	毎週日曜日	午前 7:30
交 わ り の 会	毎週日曜日	礼拝後
み言葉と祈りの会	毎週水曜日	午後 7:30

2025年度標語 『これは、人の意志や努力ではなく、
神の憐れみによるものです』

- ◎ 聖日礼拝を共に守りましょう。
- ◎ 日ごと聖書に聞き、祈りましょう。
- ◎ 家族・地域に福音を届けましょう。
- ◎ 平和を創り出すために働きましょう。

No.2509

主日礼拝式順序

2026年2月8日


 受付
司会
献金
奏楽

 礼拝当番は
礼拝堂に集まった人の中で
可能な方に担当いただきます。

前奏			
招きの言葉	[31] イザヤ書第55章6～7節	司会者	
讃美歌	32	一同	
祈り		司会者	
聖書	へブル書3章15節 (新約聖書398ページ)		
讃美歌	459 (1-2節)	一同	
お話し	「今日 御声を聞くなれば」 川上直哉 牧師		
讃美歌	459 (3-4節)	一同	
献金		一同	
報告		司会者	
讃美歌	90 (1節)	一同	
祝福の祈り			
後奏			

*当教会では 着席のまま礼拝を守っています。
 *旧約聖書は前半(P.1502まで)、新約聖書はその後ろです。
 *献金の額はいくらでも結構です。持ち合わせがないときは次の機会に。

∞〇∞〇∞〇∞〇∞ お知らせ ∞〇∞〇∞〇∞〇∞

3月1日(日)に、川上牧師は休暇を頂きます。
 10時半からの礼拝は中澤宣教師が担当されます。

∞∞∞∞∞∞ 今週の集会 ∞∞∞∞∞∞

- ☆「聖なる父」読書会 2月9日(水)19:30～ オンラインにて
- ☆「御言葉と祈りの時」 2月11日(水)19:30～ 録画配信のみ
- ☆「荊冠の神学」読書会 2月14日(木)10:30～ オンライン併用

∞∞∞ 次週の予告 (2/15) ∞∞∞

☆ 主日礼拝 (お話: 川上直哉 牧師)

[聖書]	ルカ伝18章31節
[お話]	「今、私たちは、エルサレムへ」
[讃美歌]	34 432 90 [招きの言葉] 36
受付	礼拝当番は礼拝堂に集まった人の中で 可能な方に担当いただきます。
奏楽	

∞〇∞〇∞〇∞〇∞ お知らせ ∞〇∞〇∞〇∞〇∞

♣今後の予定は以下の通りです

- ・2月8日(日) 涌谷教会での礼拝担当(14時～)
- ・2月18日(水) 灰の水曜日(四旬節 開始)
- ・2月22日(日) 日本基督教団仙台東教会 牧師就任式
- ・3月1日(日) 日本基督教団柴宿教会の礼拝担当(14時半～)
- ・3月6日(金) 涌谷教会にて世界祈祷日集会
- ・3月11日(水) 東日本大震災追悼記念礼拝(ワイズ・メンズ・クラブ主催)

《 先週の集会統計 》			
聖日礼拝	9人	み言葉と祈りの会	7人
早朝礼拝	3人	聖餐式	4人
月定献金		特別献金	
川上恵 (1月) 小杉澄子 (2月)		小杉澄子 (聖餐式感謝・会堂修理)	
席上献金	¥18,110		

週報別冊

2026年2月8日号

1. 教会宛に、以下の通信が届いています。

【日本基督教団・東北教区関係】

- 「賛美コンサート」（日本基督教団東北教区）：2月23日からの東北教区の礼拝と音楽研修会の一環として行われる、公開プログラムの賛美コンサートの連絡を頂きました。2月23日(月,休日)19時開演(20時ごろ終演予定)・会場は仙台青葉荘教会です。

【その他教会・団体関係】

- 「SINAPIS」（カトリック大阪高松大司教区社会活動センター）：「正義と平和全国集会（仙台）の分科会報告」と題して、「福島原発事故の実相を伝え続けてゆくために！」（福島大学共生システム理工学特任准教授 高瀬次子さん）と「再稼働女川原発の危うさと未来への道筋」（女川原発の避難計画を考える会 日野正美さん）の講演の様子が報告されています。
- 「ドキュメンタリー映画『教誨師と死刑囚』クラウドファンディング実施中！」：府中刑務所教誨師のハビエル・ガラルダ神父（聖イグナチオ教会）のドキュメンタリー映画が製作中であることを知らせるチラシを頂きました。

2. 牧師動静

2月2日（月）

午前中、宮城刑務所で教誨活動をし、午後、エマオで執務し、夜、スピノザ読書会をオンラインで主宰しました。

2月3日（火）

日中、一件の訪問をし、夜、ワイズメンズクラブの会議をオンラインで主宰しました。

2月4日（水）

午前中、教会で執務し、午後、キリシタン読書会を十三浜で主宰し、夜、祈祷会を主宰しました。

2月5日（木）

午前中、一件の訪問をして読書会と聖餐式をし、午後、一件の訪問をしました。

2月6日（金）

日中、教会で執務し、午後におひとりの客様を教会に迎えて接遇しました。

2月7日（土）

午前中、ワイズメンズクラブアジア太平洋地域の会議にオンラインで出席し、午後、ボランティアのために富谷に行きました。

- 本日、超教派の信徒運動として長い歴史を持つ「国際ギデオン協会」のみなさまが礼拝をご一緒くださいました。本日の涌谷教会の礼拝にもご一緒くださるそうです。心から感謝し、歓迎いたします。

2月9日（月）

日中、教会で執務し、夕方、オンラインで仙台 YMCA クリスマス委員会に出席し、夜、オンラインで「聖なる父」読書会を主宰します。

2月10日（火）

午前中、「初心に帰ってルカ福音書を読む」会を主宰し、午後、エマオで教団新報の取材を受けます。

2月11日（水）

日中、日本基督教団磐城教会で、日本基督教団東北教区いわき・郡山地区主催の「2.11 平和集会」に出席しています。

2月12日（木）

朝から東京へ向かい、佐山さんたちと聖餐式をして、夜、ワイズメンズクラブ東日本区大会のための会合に出席します。

2月13日（金）

午前中、仙台で教誨師会の研修に出席し、夜、石巻広域ワイズメンズクラブの会合に出席しています。

2月14日（土）

午前中、エマオで「荊冠の神学」読書会に出席しています。

※牧師と面会をご希望される方は、どうぞ、ご遠慮なく教会のメール宛、ご連絡ください。上記日程を調整して、お会いしたく存じます。

ドキュメンタリー映画『教誨師と死刑囚』とは

国際的に廃止の潮流のある中、世論調査では国民の8割が死刑制度を容認する日本。本作は、存置国として、一人の教誨師を通して、死刑の在り方を見つめる映画です。

東京都千代田区麹町にあるカトリック東京大司教区の聖イグナチオ教会ことカトリック麹町教会の協力司祭、ハビエル・ガラルダ神父は、2000年から小菅の東京拘置所で、教誨師として定期的に日本人の死刑囚と面会活動を続けています。

死刑確定囚の心を支える教誨師の活動を撮影した、国内初となるドキュメンタリー映画です。

長期間、ハビエル・ガラルダさんの教誨活動を撮影することで、映画が伝えるのは、取り返しのつかない罪を犯した死刑囚の今と、死刑制度を有する現代日本の罪と罰の向き合い方です。

面会直後の撮影に应じる、ハビエル・ガラルダさんの発する言葉や表情からは、限られた時間、ガラルダさんが「私たち」と呼ぶ死刑囚と共有した濃密な心の交流の証が、体温のように感じられます。

監督から

日本には死刑制度が存在します。本作『教誨師と死刑囚』は、死刑囚と面会を続けるひとりの教誨師の姿を通して、罪と罰、命の尊厳を問うドキュメンタリー映画です。日本社会に深く根を張る死刑制度。なぜその存置を容認し続けるのか。

一人ひとりが、その問いに考えをめぐらし、人間の真のあり方を見つめる映画になります。
——坂口香津美（監督）



死刑囚を“ともだち”と呼んで会いに行く 教誨師 ハビエル・ガラルダ神父（聖イグナチオ教会）



教誨（面会）で会う死刑囚のことを、私は「ともだち」と呼んでいます。

私は、2000年から今日まで、東京拘置所の教誨師として、計5人の“ともだち（死刑囚）”と教誨（面会）を続けてきました。

その間、2人の刑が執行され、2人は病死しました。

現在は、男性死刑囚1人と月に1回、面会でお会いしています。彼（男性死刑囚）は哲学が好きでよく本を読みます。

ナチスの収容所から生還した精神科医が書いた「夜と霧」を読んだあとの気付きについて、私に話しました。

「自由がなくても、生きる意味を選ぶことはできます」

彼は、罪から逃れたり、境遇に文句を言ったりするのではなく、勉強することを選んだのです。

面会する死刑囚については、個々にどんな事件を起こしたかについては、私はあえて知らないようにしています。死刑について話すこともありません。家族や知人と縁が切れ、対話できるのは私だけだからです。

彼らとは友人として接してきました。死刑囚のなかには、教誨を受けない人も多く、そうした人の中には、あるいは反省がない人もいるかもしれません。

しかし、私が今、会っている男性は、私の目には十分改心していると映ります。拘置所での生き方、物事の考え方、全体の態度で分かります。

私はこれまで、過去に一度、執行の現場に立ち会ったことがあります。

前日の夜に連絡があり、翌朝、拘置所へ赴きました。いつもと同じ教誨室で30分間、ミサを執り行いました。その死刑囚は、しっかりと聖書を朗読し、パンを口にした後、刑場の方へ向かいました。

さらに、死刑囚は、私と5分間話した後、顔を布で覆われて執行する部屋へ入りました。私は、執行の瞬間は見届けていません。しばらく待った後で、遺体となった彼と対面しました。拘置所の幹部が、全員そろって簡単な葬儀をし、献花をしました。

死刑制度は、終わらせてほしい。被害者遺族が本当につらい思いをしているのは分かります。ただ、私自身は、死刑は「間接的な復讐」で、“深いところの自分”はそれを望んでいないはずだと考えているからです。イエス・キリストは「敵を愛しなさい」と言いました。最初は憎しみで余裕がないでしょう。しかし、時間が経ち、少し落ち着いたら、その時には選ぶことができるのではないのでしょうか。復讐の道を歩き続けるか、死刑囚のため祈る道を歩くのか。

これから私は、この日本で、これまでのように、死刑囚との面会を続けたいと思います。

ハビエル・ガラルダ (Garralda, Xavier)

聖イグナチオ教会（東京）協力司祭。カトリック司祭。1931年マドリード（スペイン）生まれ。1948年イエズス会入会。1956年、コンフルート大学大学院哲学研究科修了。宣教師として来日し、1964年聖イグナチオ教会で叙階、上智大学助教授、神学部教授、1977年上智大学社会福祉専門学校校長、2002年上智大を定年退任。1994年から東京の府中刑務所で、主にスペイン語や英語を話す外国人受刑者の教誨師を務め、2000年から東京拘置所で、教誨師として日本人の死刑囚と面会を続けている。著書に「自己愛とエゴイズム」（講談社）、「自己愛と献身：愛するという意味」（講談社）、「愛を見つめて 高め合い、乗り越える」（集英社）など。2018年、瑞宝小綬章受章。

（ハビエル・ガラルダ神父ホームページ）https://jesuits.or.jp/_garralda/biography/